

景観デザイン基本方針1

関内景観形成ガイドライン ＜地区別ガイドライン 行為指針より抜粋＞

- (1) 港町の歴史を伝える**歴史的建造物を保全活用し、それらと調和する新しい街並みの創出**
- (2) **ゆとりある歩行者空間と魅力ある水際空間の形成と、賑わいある街並みの創出**
- (3) **魅力と品格のある眺望景観の形成を図る**
- (4) エリアマネージメントによる、**地区の持続的な魅力づくり**
- (5) **自然環境との調和を感じさせる景観の創出**
- (6) **屋外広告は、**自動車または北仲通り北準特定地区区域図に示す大さん橋の「眺望の視点場」からの**眺望を阻害しない、落ち着いた広告景観を形成するものとする**

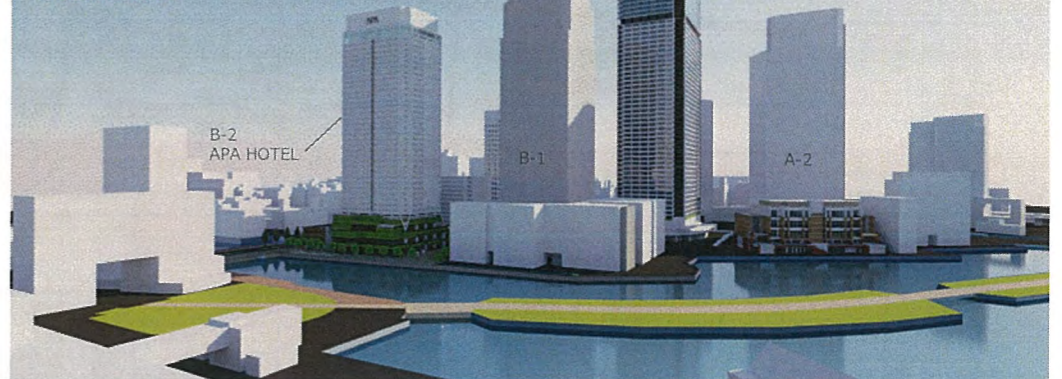


北仲通北地区で一番海に近い立地

- ・北仲通北地区の中でも、角地にあつてみなとみらい地区を背景にした景観的に重要な位置づけ
- ・北仲エリアの海側からの**シンボル性とアイデンティティー**を表現

なだらかに海へ下るスカイライン

- ・みなとみらい21地区から連続するスカイラインの尾根を形成し、地区内の4棟の群として**まとまりのある景観の調和を図る**



北仲ホワイト色
P C外壁の仕上げは、明るいグレー～白系の彫刻的なテクチャーとし、群としての調和に配慮した色調



万国橋ビル外壁タイルの再現

— 145m(最高高さ)
— 135m(建物の高さ)

トップのデザイン

- ・上昇感があり、凹凸があるトップ形状が**光(陰影)の変化でスカイラインを個性的に演出**

最上階(スカイストラ部)

- ・ガラス張りのボリュームを海側に配置し、眺望スペースとしての期待感を生む構成
- ・**港の夜景を魅力的に演出**

中層部(宿泊棟部)

- ・角の隅切りや、中央のスリットの効果による**細見のプロポーション**で抜けのあるスカイラインに配慮
- ・白系のP C外壁をベースにした規則的なポツ窓の配列とシンメトリーの外観が特徴的で、同時にポツ窓の大きさを最小限にして空調負荷低減による地球環境に配慮

低層部

- ・**歴史的建築ファサード(万国橋ビル)と、緑化壁面、テラコッタルーバー、ガラスによる現代的意匠の融合**
- ・ヒューマンスケールで分節化された凹凸のある外壁とし、**リズムカルな水際景観を演出**

万国橋通り側



— 145m(最高高さ)
— 135m(建物の高さ)

汽車道側

万国橋通りと水際線プロムナードの両方に面する立地特性を活かす

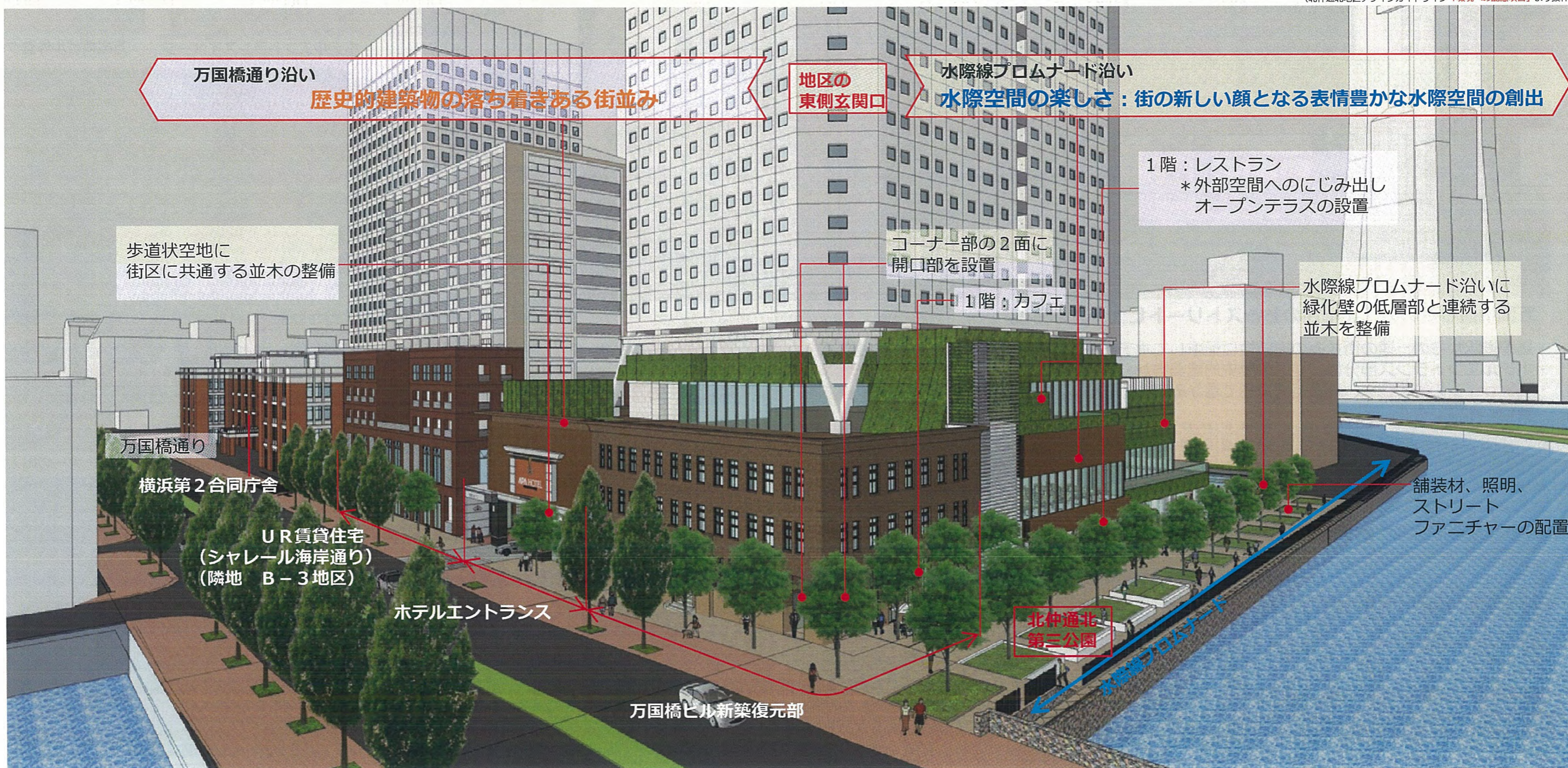
- ・北仲通北地区の東側玄関口にあたるB-2地区では、歩いて楽しい、回遊と賑わいの多様な空間ネットワークの「起点」となることが求められます。
- ・万国橋通り沿いの「歴史的建築物の落ち着いた街並み」と、護岸沿いの「水際空間の楽しさ」を活かし、各々に特色ある創りとします。

環境に配慮した特色ある街づくりを先導する緑があふれ潤いが感じられる景観の形成

- ・平面的な緑化だけでなく「壁面の緑」を環境デザイン要素として多く取り入れた面として緑のボリュームを感じられる「緑豊かな街のゲート」空間を創ります。

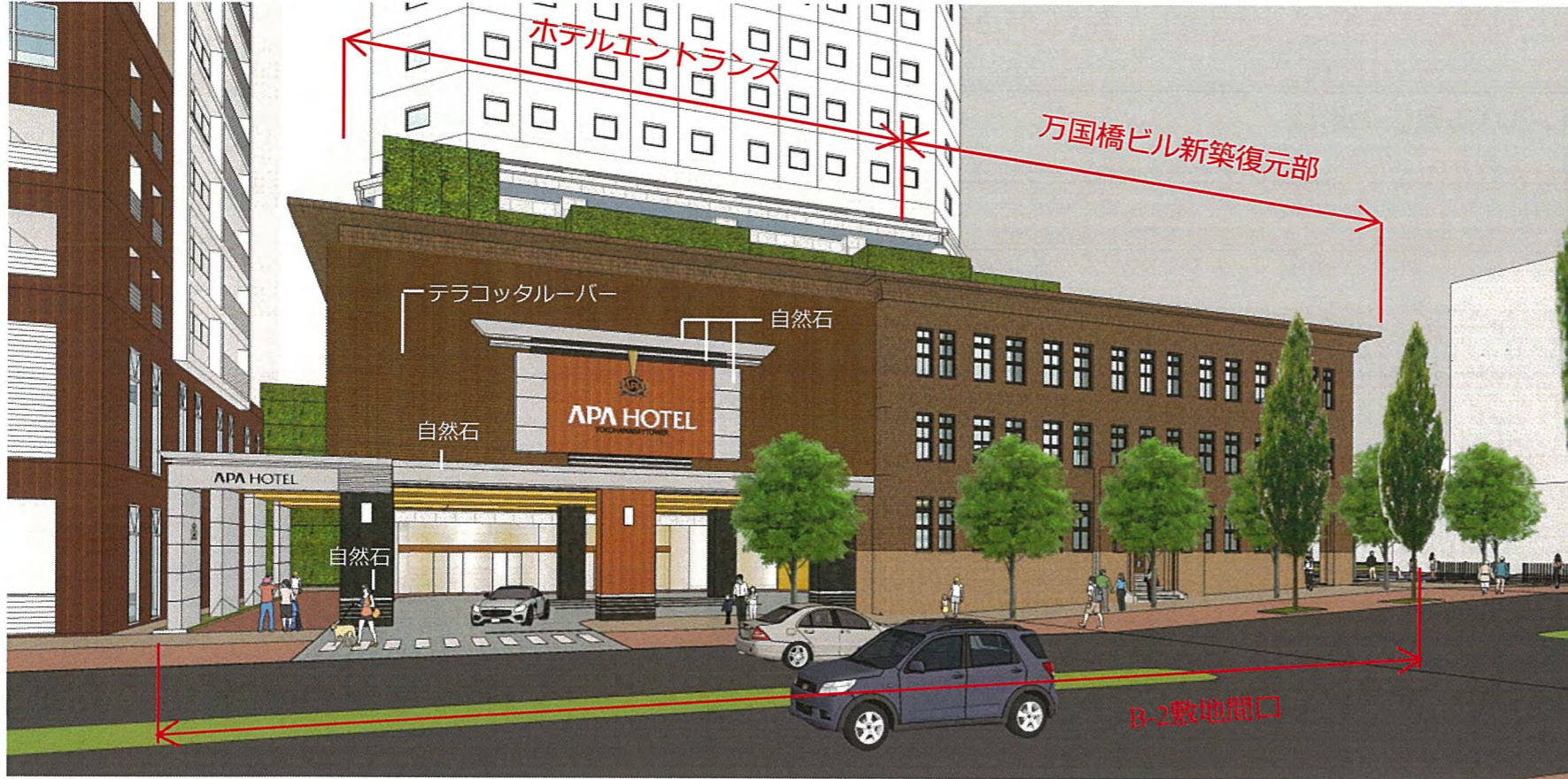


(北仲通北地区デザインガイドライン「環境への配慮項目」より抜粋)



「調和と対比」のデザイン

- ・できる限り忠実な新築復元を行う万国橋ビルとホテルエントランスのファサードは素材を調和させながらデザイン的には対比させることで万国橋ビルの存在感を際立たせる計画とします。



ホテルエントランスイメージ



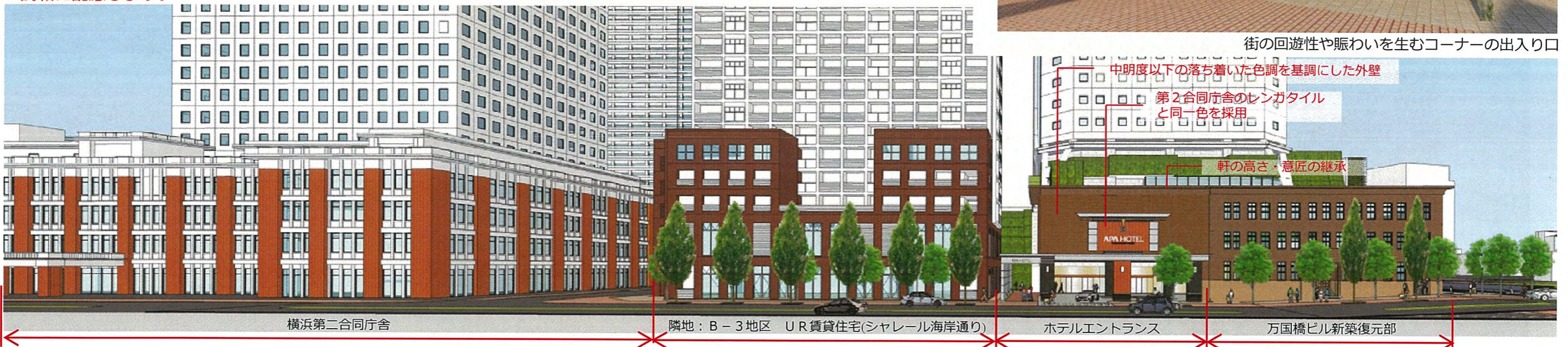
万国橋ビル外壁タイル

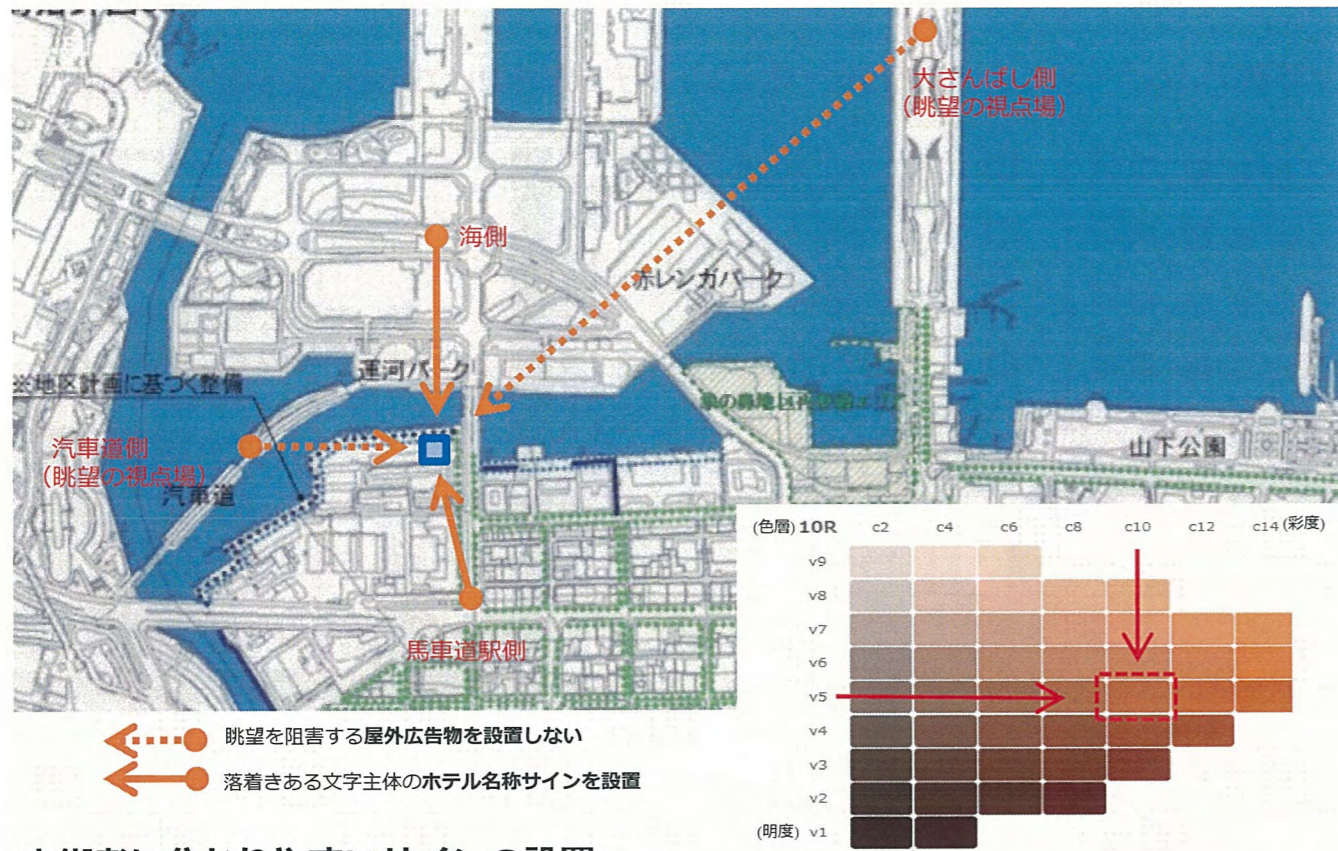
万国橋通り沿いの「連続性のあるストリートビュー」の形成

- ・馬車道駅からの一連の街並みの連続性に配慮してホテルエントランス部分は歴史的建築物の軒の意匠、高さを継承します。
- ・ホテルエントランス部分は、地区の歴史的建築物から抽出した中明度以下の落ち着いた色彩を基調とします。
- ・名称サインの地の色に、外壁と同系色で温かみのある「横浜第2合同庁舎のレンガタイルの同一色」を採用し、街並みの調和に配慮します。



街の回遊性や賑わいを生むコーナーの出入り口





来街者に分かりやすいサインの設置

- 馬車道駅付近の歩道から来街者に視認しやすい位置に落ち着きがあり、周辺環境にふさわしい秩序あるサインを設置

- ホテルエントランスのサインの地の色は、横浜第二合同庁舎の色と同一色とし、街路沿の街並みの調和に配慮します。



馬車道駅側からのアクセス



大さんばしからの景観

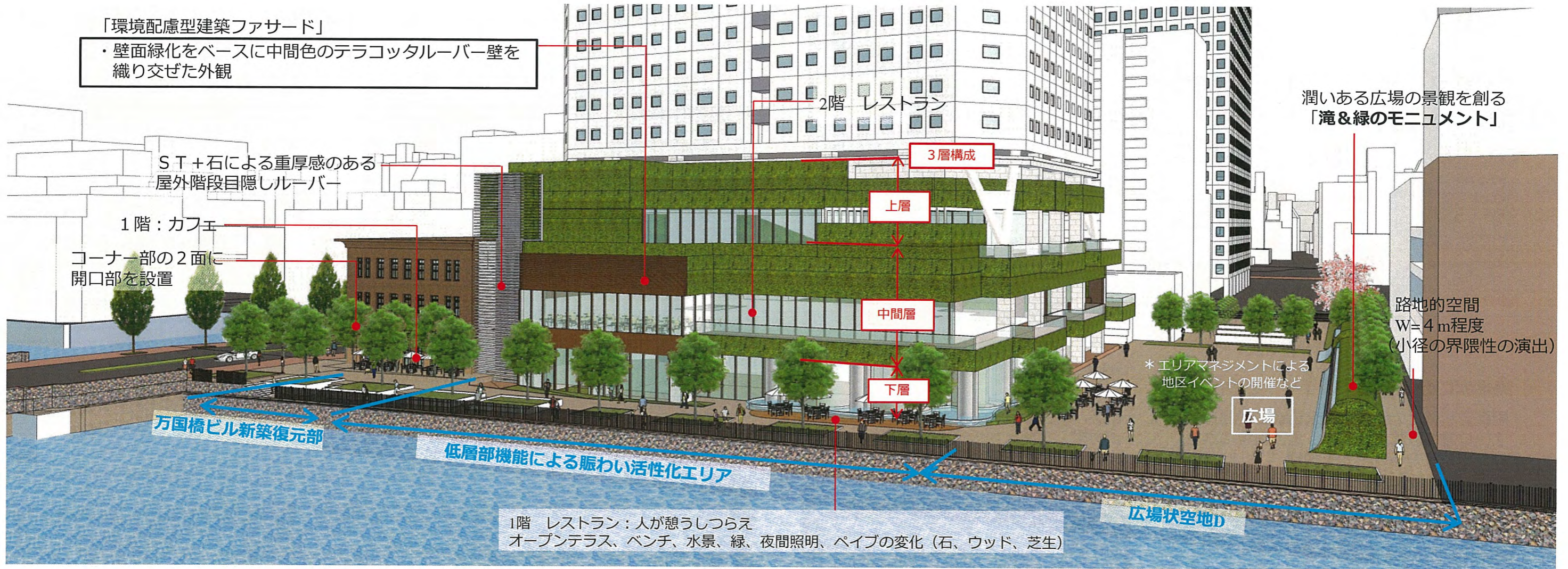


ホテルエントランスへのサイン設置

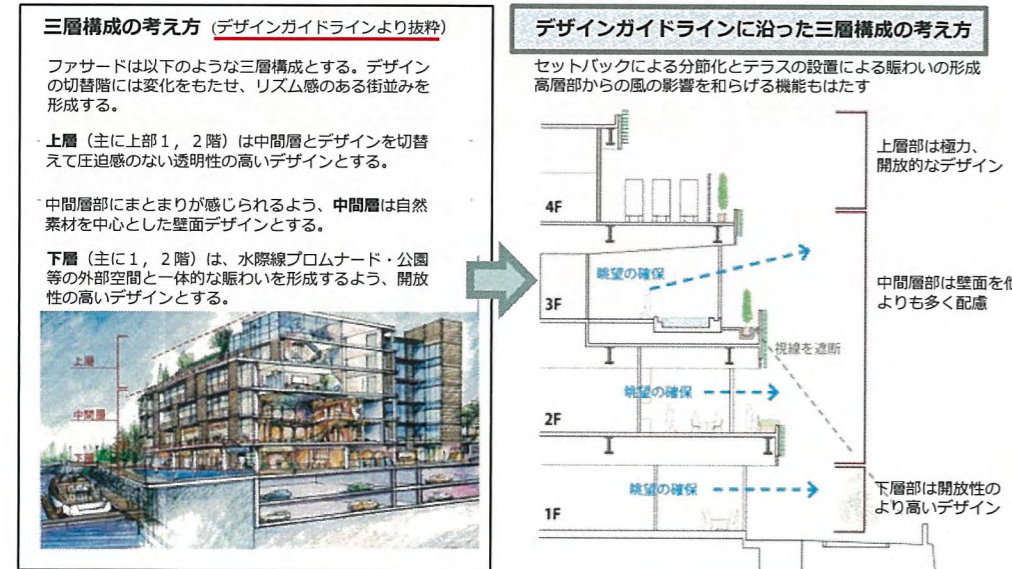
景観デザイン基本方針4

賑わいある水際空間の再生

- ・街の回遊性や賑いを生む飲食店舗や物販などの店舗を低層部に配置します。
- ・店舗への出入口を、万国橋ビル新築復元壁のコーナー部分に設けて万国橋通りの人の流れを取込む他、水際線プロムナードに面して店舗と一体となったテラスを設けて賑わいある街並みを創出します。



「水平方向の分節化」と「垂直方向の3層構成」をした低層部ーヒューマンスケールで分節化されたリズムカルな水際景観の形成ー



中間色の素材+積極的な緑化によるアイデンティティある外観が「街区の統一性と連続性」を生む

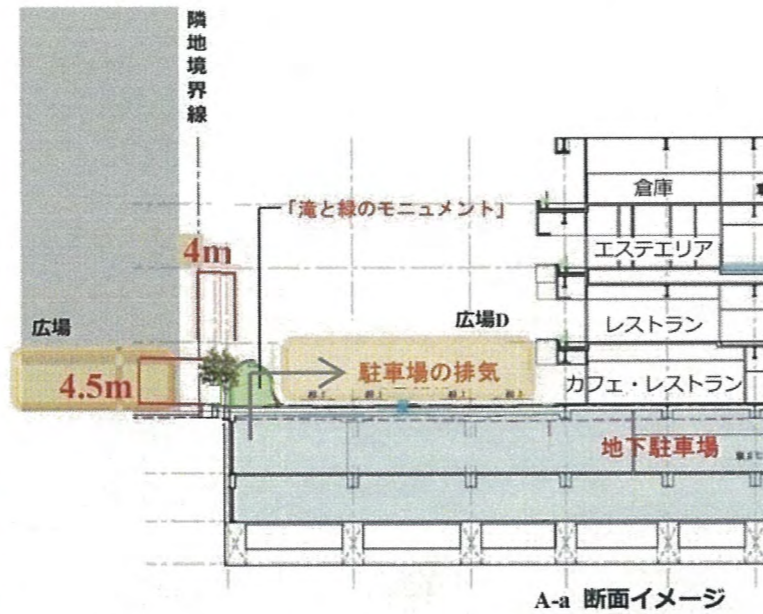
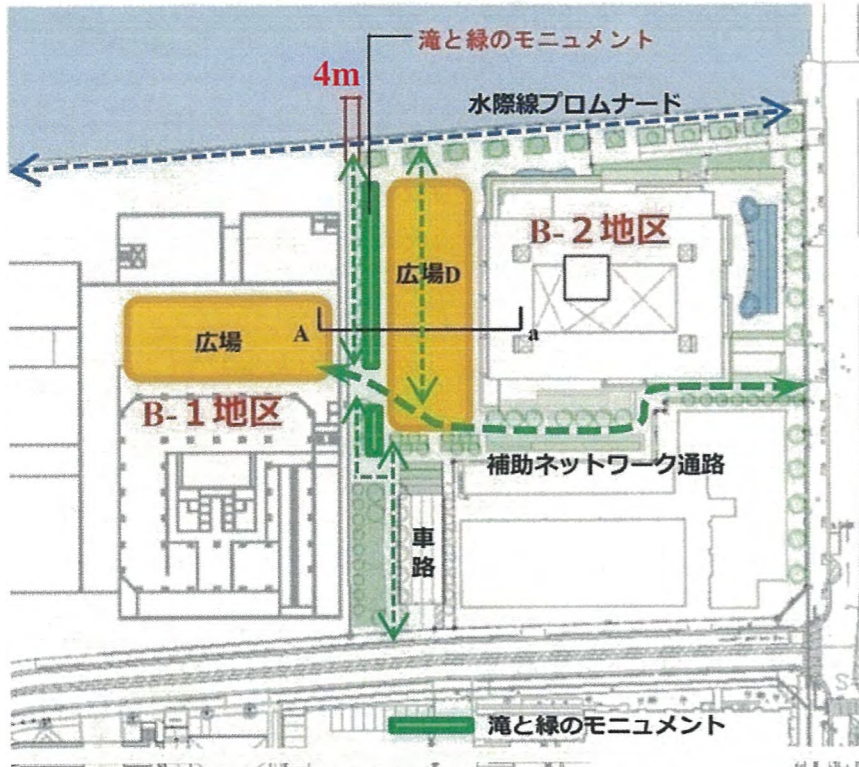
- ・テラコッタなどの中間色の素材を外壁に採用することで、街区のデザインを繋ぎ、水際の統一感ある景観を形成します。
- ・街のコーナー部の緑化の推進を積極的に図ることで、まとまりある緑の空間が水際に点在する表情豊かで連続性のある歩行者ネットワーク空間を形成します。



景観デザイン基本方針5

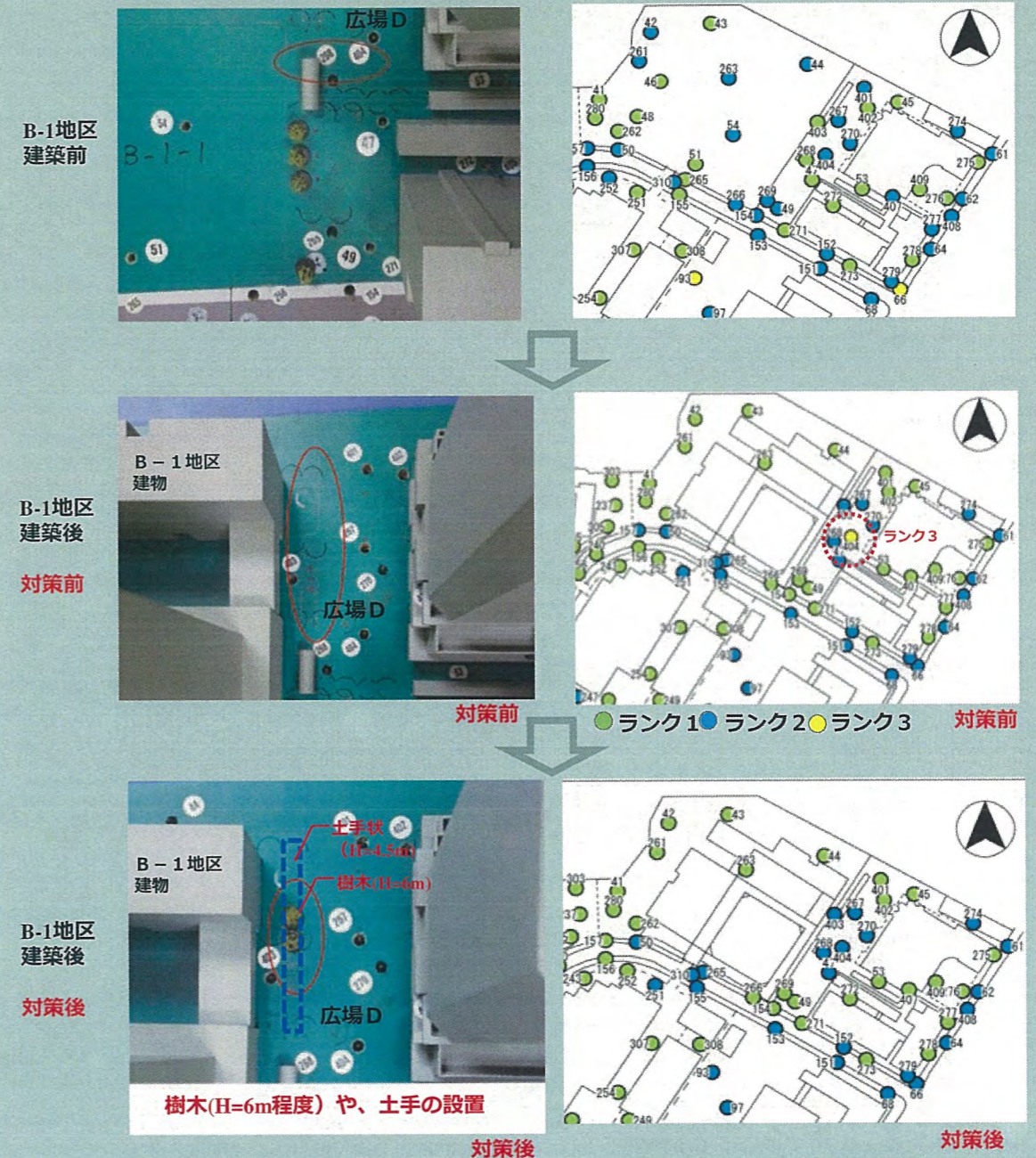
広場ごとの個性の創出と、広場間の一体的な運用も可能にする景観要素

- ・広場と広場の間に、それぞれの空間のアイストップとなる「滝と緑のモニュメント」を設け、個別の利用が行いやすい構成とすると同時に、補助貫通通路を通じて、互の行き来も出来、一体的なイベント利用も可能となります。
- ・モニュメントは地下駐車場の排気ファンの設置スペースを兼ねています。B-2敷地側に排気を行います。



ビル風から広場の環境を守る

- ・B-1地区の建築後に想定されるビル風から広場環境を守るため「滝と緑のモニュメント」および高木を適宜配植します。



「滝と緑のモニュメント」は、B-1地区の建物や広場からの視線に対して、緑化された緑の丘として存在し、隣地の環境や景観も整える要素になります。



実際はおおよそこの高さのラインのイメージです



「滝と緑のモニュメント」の隣地から見たイメージ ※写真はあくまでイメージで、実際の高さなどは異なります。

みなとみらい21地区の特色

●街並みをつなぐ光

歴史的文化を継承し、ウォーターフロントとしての新しい街並みの魅力を創出する

●人に優しい光

賑わいと静寂を引き立て、抑揚のある光環境をつなぐ

●景観に映える光

みなとみらいから連続するスカイライン、北仲エリアの群としての景観シンボルを担う

●環境を活かす光

山の手から海へとつながる場所としてのアイデンティティーを表現

関内地区の特色

●「北仲通北地区のアイデンティティ」の創出

●「憧憬（しょうけい）」、「愛着」の創出

高層・遠景

●景観に映える光

みなとみらいから連続するスカイライン、北仲エリアの群としての景観シンボルを担う

中層・中景

●環境を活かす光

山の手から海へとつながる場所としてのアイデンティティーの表現

低層・近景

●街並みをつなぐ光

歴史的文化を継承し、ウォーターフロントとしての新しい街並みの魅力を創出する

●人に優しい光

賑わいと静寂を引き立て、抑揚のある光環境をつなぐ

色

●エリアの統一感をつくる

●重厚で品格のある光と軽妙で先進的な光のコントロール

形

●建築・ランドスケープのデザインを活かす

●地域に一品のあかり「北仲ランタン」が迎え火としておもてなしの心を伝える

変化

●24時間都市にフィットしたタイムシーケンス（光のシーン）をつくり環境演出を快適なエネジーセーブを実現する

●伝統と先進・水と緑が融合し自然なゆらぎからドラマチックな演出を多様につくりだす

夜景の考え方

伝統と先進・水と緑 豊かな環境を活かした一際目を惹く美しい光の街をつくる

- 頂部のライトアップ
- 室内照明の溢れ出し



夜景の考え方（自動車側地区全景）

伝統と先進・水と緑 豊かな環境を活かした一際目を惹く美しい光の街をつくる

- 頂部のライトアップ
- 室内照明の溢れ出し



夜景の考え方（東側全景）

伝統と先進・水と緑 豊かな環境を活かした一際目を惹く美しい光の街をつくる

- 万国橋ビル新築復元部ライトアップ
- ホテルエントランス間接照明
- 室内照明の溢れ出し



夜景の考え方（東側全景）